

氏 名 : 山田 巧
学位の種類 : 博士 (看護学)
学位記番号 : 博看第4号
学位授与の要件 : 学位授与基準第4条第1項該当
学位論文題目 : 看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育へのプロジェクションマッピング
導入に関する研究 ～胸部のフィジカルアセスメントに焦点をあてて～
研究指導教員 : 教授 草間 朋子
論文審査委員 : (主査) 今井 秀樹
(副査) 前田 樹海、別所 遊子、小宇田 智子、草間 朋子

論文審査結果の要旨

本研究は看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育へプロジェクションマッピングを導入するにあたり、胸部のフィジカルアセスメントに絞ってその導入の可能性・有用性を検討した。結果は以下に要約される。

1. 胸部ランドマークについてプロジェクションマッピングを用いた実験的介入をし、その有無による学生の知識・技術修得レベルの違いを比較した。すなわち、胸部ランドマークの知識については実験的介入直後および実験的介入3か月後ともに修得レベルには差はみられなかったものの、胸部ランドマークの技術については3か月後にプロジェクションマッピングによるレベル維持の効果がみられた。
2. 呼吸音聴診についてプロジェクションマッピングを用いた実験的介入をし、その有無による学生の知識・技術修得レベルの違いを比較した。すなわち、呼吸音聴診の知識については実験的介入直後および実験的介入3か月後ともにプロジェクションマッピングの効果がみられた。呼吸音聴診の技術については3か月後にプロジェクションマッピングによるレベル維持の効果がみられた。
3. 心音聴診についてプロジェクションマッピングを用いた実験的介入をし、その有無による学生の知識・技術修得レベルの違いを比較した。すなわち、心音聴診の知識については実験的介入直後および実験的介入3か月後ともに修得レベルには差はみられなかったものの、心音聴診の技術については、直後および3か月後ともにプロジェクションマッピングによるレベル維持の効果がみられた。

以上、本論文はフィジカルアセスメントの知識および技術の修得に関して、従来試みられなかったプロジェクションマッピングを用いた方法の有用性を示唆した。本研究は広く看護基礎教育・現任教育への重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。

平成 29 年 1 月 30 日

論文審査委員（主査）今井 秀樹